

ヤマハ
ボート

YAMAHA BOAT NEWS NO.31



Family Vacation on **YAMAHA**



ヤマハクルージング情報

夏だ!クルージングだ!



紺碧の海に真白いしぶきをあげて快走するヤマハ、見るからに涼しいクルージングは、夏を楽しむポイントマンにとって最高のプレイです。六月の声を聞くともうじつとしていられないポイントマンたちが、梅雨あけをまたずに飛び出して、クルージングシーズンがオープンするのです。今年は何ポイントオナーの数もぐんと増加して、クルージングも20艇以上の大グループで行われることが多くなるようです。それだけに、初めてという方も多いわけですから、リーダーは慎重の上にも慎重に計画を進めてください。

シーズンのトップを切って行われた二つのクルージングをここでご紹介します。遊び方、コースなど参考にして、すばらしいクルージングを楽しんでください。

千葉クルージング

●六月十四日

主催 ヤマハ発動機・東京支店



▶カスがなくてもお魚は焼けるの、と初めての炭火にヒツクリ

六月十四日、午前八時半、百五十名に及ぶ大クルーズが葉山マリナーに集合、三十二隻のボートに分乗して房総視察に向った。城ヶ島を経て東京湾を横断、ときどき雨が降るといった天候で視界もあまりきかず先導艇は後続艇の確保に苦勞したが、昼をすぎると無事目的地、祝明海岸に全艇投錨した。

地引網がメインイベントだったが、到着が遅れたこともあって、すでに地元側で投げたおとなりの残念、さつそくとれた魚でパレーキエーと天ぷら、なにぶん大人数なので少し網へ入り、浜は太平の民のなまどと大いに賑わった。そのうち早いクルーズが水に飛び込み初泳ぎ、女性が多くはなやかなクルージングだった。

▼民のカマドならぬ、ハーベキューのかまどが大に
さわい、数十キロの魚はたちまち胃袋の中へ



伊豆・クルージング

●六月十三・十四日

主催 横浜 平野ボート



▶スキューバでシーハントするグループ、さつそく戦果が上がる

午前四時、まださめやらぬ横浜の港をあとに、路大島へ向けてスタート、梅雨入りのため視界が悪く、ハンドトーキーでかろすしてコンタクトのとれる有様。相模湾に入っても状況はよくなるはず、リーダーは急換目的地を楢取に変更した。

早朝スタートで全員寝不足のため、まっ宿をとって仮眠。午後二時からわずかに顔をのぞかせた太陽のもとでスキューバイビングと釣を楽しんだ。

一日も梅雨前線の影響でおもわしくない空模様。結局、大島はあきらめて、トローリングを楽しみながら横浜へ帰ることに決定、鳥やまを探しながら走って、午後の早いうちに東京湾へ入り、全艇無事帰港した。



▲空模様は悪くてもこんなハマチがかかればクルーの顔は日本晴れになります



▲カスが頭上に垂くたれこめる海面を恒車にはしる
元気のいい連中は梅雨空をものともせず水中ハレー▶

▼挽くのもいいが、あけるのもまたオツです

▼オールをバットにして
ていさましいピキニ嬢



夏だ! クルージングだ!



▲快走するストライプ20SCR爽さが最高の魅力
泊地についたらすぐお互いの安全を確認しあおう▶
▼こんな小物もかかるので釣りの楽しさが増すのです





葉山マリーナのポンツーンに集合した大小17隻の参加艇



鳥山を見つけるウォッチマンは責任重大、彼の目に今日の成績がかかっている

釣ろう

ヤマハマリンクラブ 第二回つり大会

●六月二十八日——葉山沖

梅雨のさなかと思えないカラリと晴れあがった六月二十八日、葉山沖に集った六十八名の大公望によって、葉山沖つり大会が盛大に開かれました。

午前七時半の受付開始より早く、腕におぼ



さて今日は何が食べがいいかな本格的なプラグセットを前に考えるのも楽しい



あわてる乞食はもらいが少ないとばかりポンツーンの上に坐りこみ仕掛をつくる



▶魚がどの竿にかかろうかと迷ってしまうほど鈴なりの太公望
 ◀ざっとこんなもんです。入賞はまちがいないでしょうね。



ボートが大きいからと
 いって釣れるわけでは
 ないよと頑張るF12▼



ボートで

魚種別にかけて数をあたる、どうだ珍魚はないかね



入賞しためんめん、大きな釣果と大きな賞品で両手に花

えのある釣天狗が愛竿を持って集合。前日からクルーザーの中で一泊した人、フィッシュマンを愛車のルーフに乗せて来る人などにぎわいました。

午前八時半のミーティングのあと、九時ジャスト出艇、大はヤマハストライプ20SCRから、フィッシュマン12まで総勢十二艇が漁場へ向かいました。

新聞、雑誌などの後援で多くの賞品が集ったためか全艇ハッスル、なかには百尾を越す釣果をあげたボートもいくつかあって、トップあらしはまったく余断をゆるさないといった状態でした。

審査の結果、ヤマハ賞は篠本さん。大物賞は、五五〇グラムのサバをあげた小林さん。珍魚賞はちよつと該当するものが見当りませんでしたが大船さんがかくとくしました。女性ナンバーワンは伊藤夫人、これも白ギス二〇〇グラムが受賞の対象になりました。

海の仲間がふえています



ズラリ並んだニューボートとオーナー、これから本邦初演の集団見合ならぬ集団進水式がはじまります

シーボニアで

集団進水式

神奈川県—小網代

さる四月二十六日、ヤマハ東京支店管内で一日に八隻のヤマハボートが進水、新記録をつくりました。そのうち六隻が神奈川県三浦市小網代湾のシーボニアヨットクラブでおこなわれ、ハーバー内は色あざやかなテープとシャンペン割れる音でときならぬにぎわいとなりました。

進水した艇種は、ストライプ18クルーザー3隻、ストライプ18スポーツ1隻、ストライプ20キャビンクルーザー1隻、ストライプ16インボード一隻の計六隻。個人オーナーが、四人、社員のレクリエーション用にと購入した会社が二社といった組み合わせでした。会社役員は山口さんは、18クルーザーにトロリーリング用のロッドホルダーを特注で増設、トロリーリング大会の一位をねらうとはりきっていらっしゃいました。その他、やはり会社役員は今井さん、歯科医の花井さん、スポーツ用品店経営の伊藤さんが新しいヤマハキャブテン候補、みなさんファミリークルージングが目的とのことです。

全艇、はなやかでおごそかなセレモニーのあと処女航海へスタート。あざやかな航跡を残してみごとにはしりっぷりをみせました。



処女航海へ
出かける
みなさん

ストライプ20CCRの三つ矢トラベルのみなさん



さっそく魚群をたずねてフルスピードでトローリング海面へ向うストライプ20CCR



たっぷりとボートにかける人、自分の胃袋に入れる人、どちらも愛艇の無事を祈ればこそ

この日六本のシャンペンが抜かれました



はやばやとライフジャケットを着こんだ坊や、チョコキンとテープを切ってボートは無事進水しました。

百億円産業へ脱皮

●社団法人日本舟艇工業会発足

今年には海事史上かつてなかったほどのボートブームといわれていますが、それを受けて立つボート業界も態勢の確立に全力をあげ、任意団体であった「日本舟艇振興会」を社団法人に改組し、その名も「日本舟艇工業会」としました。初代会長には、真藤恒氏（IH I副社長）が就任し、ただちに活動を開始、当面の目標である「百億円産業」への発展を促進することになりました。

これまでボート界の成長をはばんでいた物品税の問題、パブリックマリナー建設などに関して運輸省、大蔵省への陳情などが初の活動となります。

工業会の発足に際して、六月十日、帝国ホテル「孔雀の間」においてレセプションが行われました。会場には、三笠宮殿下、同妃殿下をはじめ、日本のボート界を代表する約二百五十名の関係者が集り、会の発足を祝いました。



ヤマハママリナークラブ 講演と映画の夕べ

東京



三木鮎郎さん



今年から発足したヤマハママリナークラブはすでにいろいろな行事を開始、活発に活動しています。

六月六日に行われた東京での四回目の行事は、東京神田の岩波ホールにおける講演と映画の会、二百五十名の会員が午後六時の開場を待ちきれずにつめかけ盛況でした。東京支店荒浪次長がスライドをまじえてアメリカボート界の現況を報告したあと、ヤマハボートのオーナーでもあり、TV司会者としてもよく知られる三木鮎郎さんのユーモアあふれる講演に会場はしばしば笑い声につつまれました。

最後にアメリカのクルージングと水上スキーをカラー映画で紹介、美しい五大湖の景色の中を走る大型クルーザー、水上スキーの妙技などに感嘆の声ががりました。マリナークラブではこれからシーズン中は、クルージング、トロリーリングなどをつぎつぎと行い、会員に満足してもらおう計画をふんだんにたてています。

海技免許延期

ボート免許来年まで延期

この七月から実施される予定だった、釣船、モーターボートに対する無免許運転取締りは、来年の一月まで再延期されることになりました。これは、釣船の船頭さんたちが試験をきらって、いまだに

二万人近くの無免許者がおり、取締ると、ほとんどの釣船が営業できなくなるからとのこと。とくに高齢の船頭さんにはいまの試験はむずかしく、このため試験も筆記試験を止め、視力も眼鏡の使用を認めることになりました。

ねむさと 合歓の郷マリーナ完成



真珠のふる里英虞湾につき出た一角。音楽とスポーツの理想郷としてつくられたヤマハ合歓の郷に、待望のマリーナが完成しました。ここは例年ヤマハ水上スキー教室の会場になっていたのでおなじみの方もあることでしょう。

この「合歓の郷」は、ヤマハミュージックキャンプをはじめ、アーチェリー射場、ホテル、貸別荘「ピラ」などが三百万平方メートル内に点在し、最近はミュージックフェスティバルの開催場としてもよく知られるようになってい

ます。マリーナは、これら施設の一環としてつくられたのですが、この地方は水の遊び場が多いにかかわらず完備したマリーナがなかったので、初の本格派マリーナの誕生として、注目されています。

施設は、棧橋が水道、電気完備で水洗いや動力を使う場合大変便利です。収容能力は二百隻、サービスマン三名が常駐しています。

このマリーナの会員は、「合歓の郷」に入場無料、その他いろいろな特典があります。

四国ボートショーウברי

海にかこまれた四国はボートテイキングのベースとして絶好の環境に恵まれています。全国的に高まっている海のレジャー熱は、この四国でもご他聞にもれず、とくにボートへの関心が高まり、今年はずでに10回を越すボートショウが開かれています。ここに紹介するのはいずれも高松でのショーですがこの他に、丸亀市、伊予三島市、松山市、高知市、八幡市、西宇和郡、徳島市、大洲市、坂出市など、四国全域で行われました。高松では四月二十五日から二十

九日まで、高松国際ホテル、つづいて、五月九日より六日間三越駐車場での二回あり、それぞれ合わせて九万人を越すボートファンを集めました。

四国での特色は、和船をレジャー用に購入したいという人が多く、釣天狗も四国になると本格派のよう

です。この他、商店街にある専門店のウインドに常時展示するなど積極的なボートショウを50ヶ所で実施しており、四国のボート熱もいよいよ本格化へと進んでいます。



湖の安全を守るストライプ18CR

●巡視艇「おおるり」中禅寺湖で活躍



おまわりさんも今日はクス玉
つけに大わらわ



栃木県知事の手によってテープが切られ、おおるりは湖上に大きくはばたきます

国際観光地として内外の観光客を集める日光の中禅寺湖に、ヤマハストライプ18クルーザーの巡視艇が就役しました。
「おおるり」と名づけられたこの巡視艇は、水上レジャーのベースとして最近多くの人を集めている中禅寺湖の水難予防に一役かおうというものです。

四月三十日の進水式には、横川栃木県知事、北野県警本部長をはじめ五十名に及ぶ関係者を集めました。サイレン、投光器、赤色灯、小型スピーカーなど、陸のバトカーとまったく同じ装備をつけた「おおるり」は、関係者と報道カメラマンの見守る中で、あざやかな航跡をえがいて疾走。名前の「おおるり」は栃木県の県鳥である渡り鳥ですが、その名のとおり軽やかに、力づくよく湖上をまるで飛びまわるように走る姿は、たのもしさにあふれていました。



▲リリしい制服姿のクルーがもやいをとく

▶ストライプ独特の走りっぷりを見せて湖上を飛ぶおおるりは参会者に頼もしくうつつた



海の男の渡し船



大きな本船に横づけした“第2さつき丸”
一日に九回港と沖の間を往復する

船足の軽さを見せて港内に行く“第2さつき丸”運転のしやすさも評判がいい



ヤマハ独特の船型が抜群の波切りのよさをみせる

清水港といえば、駿河の国は茶のかおりと次郎長と森の石松で名高いのですが、それは昔のこと、現在の清水港は京阪神の港にならぶとも劣らない貿易港です。とくにヤマハ製品との関係が深く、オートバイ、ピアノなどはすべてここから海外へ積み出されています。

この清水港で、港内の重要な足として、ヤマハ製のFRP艇が活躍しています。

清水港ポートサービスに所属する「第2さつき丸」がそれですが、八隻の僚艇と二十四人の社員とともに、朝七時の第一便から、夜十一時の第九便まで、棧橋と沖に停泊している外航船の間を行き来しています。台風接近ともなると、夜中でも船の保安のため帰船する船員をはこぶことになり、荒れる海を徹夜で走りまわることも多いそうです。

初のFRP艇である「第2さつき丸」は社員の方達にも船足の早さと操船のしやすさが評判で、みなさんから可愛がられています。

青森県沿岸漁業取締船



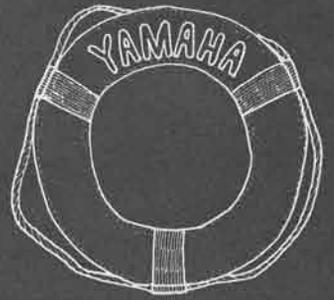
試運転で船首を上げ、力強い航走ぶりを見せる“うとう”

“うとう”進水

丈夫で軽いヤマハFRP艇は特需の面でも各地で活躍していますが、また新たな沿岸漁業取締船が進水しました。発注は青森県水産課で、津軽海峡をはさんで日本の裏と表に面している青森県の沿岸を舞台に活躍します。

“うとう” 諸元

全長十五・六M全巾四・一M深さ二・〇M
排水量十九トン、総トン数二十七トン
最高速度二十ノット巡航速度十八ノット
燃料タンク容量二千リットル
航続距離二百五十マイル 乗組員六名
機関 GM高速マリンジーゼル
三百二十馬力(二千三百回転)二基
機装・設備
レーダー、魚群探知機、無線電話



ヤマハボートセミナー

陸の自動車にも、赤色信号灯、消火器などの常備が義務づけられるようになりました。

海ではなおさらのこと、義務づけられなくても、安全備品をチエックしてからもやいやいとくのはキャブテンとして最低の心得なのです。チエックしようにも、チエックするものをのせてないというのは論外というものです。

ではモーターボートの安全備品にはどんなものが必要かを、おはなしましょう。

●救命器具

救命器具には、胴衣、クッション、浮環、その他、ポール式で遭難者に向けて投げると水面でふくらむものなどあります。

胴衣は乗員に一個づつ用意してください。ボートに乗るときは必ず着用します。これは万一落水したときなど、波にあたるショックをやわらげる役に立つからです。子供が乗る場合はぜひこの胴衣をつけてから乗せることを守ってください。

クッションは、シートの上に置いたり、接岸すると防舷材がわりに使ったりできて便利なものですよ。

救命浮環は、大きな船にもある、白に赤いオビの入ったおなじみのものです。船名を入れて、アクセサリ代用にもなりますから、一隻に一個は用意してください。

●消火器

小型ボートのエンジンは、そのほとんどがガソリンを使いますから、消火器はぜひ用意してください。小型の間に合せのものでなくなるべく大きなもの、海の上では応援を頼むわけにも、一一九番するわけにもいかないのですから、完全に火を消す能力が充分にあるものを用意してください。

●信号器具

海の上では非常の場合、声で合図しても通りません。応援を頼みたいのに行きすぎてし

まわれることも多いのです。信号器具は必ず備えましょう。

発煙信号、発火信号、遭難信号旗、笛、エアゾル式ホーンなどいろいろあります。夜間にわたることもあるのですから、発火信号を一つ、旗を一つ、ホーンを一つ、計三種は用意してください。

●錨 (アンカー)

自動車で安全点検の

第一をブレーキにおきますが、ボートもブレーキは大切です。その働きをするのが錨です。

大きなボートには大きなものを用意しなければなりません。標準は表のとおりですから、参考にしてください。

海底に沈めて固定するもの、その他、流れに流して、船首を波の方向につねに向くようにするシーアンカーも用意し

ボートの長さ(m)	錨の重さ (kg)
4	6
5	9
6	13
7	18

ておくと安心です。

ない場合、バケツをロープにゆわえて、バウから流しても代用できますから、バケツ一つ、ロープの予備を用意することも忘れてはいけません。

バケツはこの他、アカ汲み(船の中にたまる水)にも使うわけですから忘れないようにしてください。

●船灯

夜間航行の要がある場合必ず灯火を用意しなければなりません。三メートル程度のものなら、懐中電灯を用意して、夜間他船がみかけたら合図するようにします。四、五メートル以上の場合、両色灯と白灯を常時にかかげられるようにしたいものです。

●コンパスと海図

遠くに出たり、クルージングしたり、また霧の出やすい地方などでは必ず用意してください。海図はその読み方が地図とちがっていろいろありますから、よく習熟するようにしてください。このボートニュースでも海図特集をしたものがありますし、将来も再び海図の読み方をこのセミナーでやります。その他いろいろ海図に関する参考書がありますからボートオーナーになったらぜひ一読してください。

●トランジスタラジオ

クルージング中に音楽を聞くというだけでなく、天気予報を知り、使いようによっては陸地の方向を知ることできます。必ず一個は持って出港してください。

●トランシーバー

二隻以上で行動するときはぜひ欲しいもの、海上は障害物がなく大変役に立ちます。

●救急薬品

海では思わぬケガや、船よいなやまされいます。救急箱は常備してください。人間の救急だけでなく、エンジンの救急、も忘れずに、予備のプラグ、ガソリン、工具をチエックしてください。パドル(カイ)つめ竿も忘れてはならないものです。

そんなのにせたら、人が乗れないじゃないかといわずに、万全を期してください。全部とまでいなくても、救命胴衣、アンカー、バケツは忘れないように。

ヤマハ15DX初戦を飾る OOAKRに優勝



▲ヤッタセ優勝、ダントツ（断然トップ）の勝利に思わず顔がほころびます。

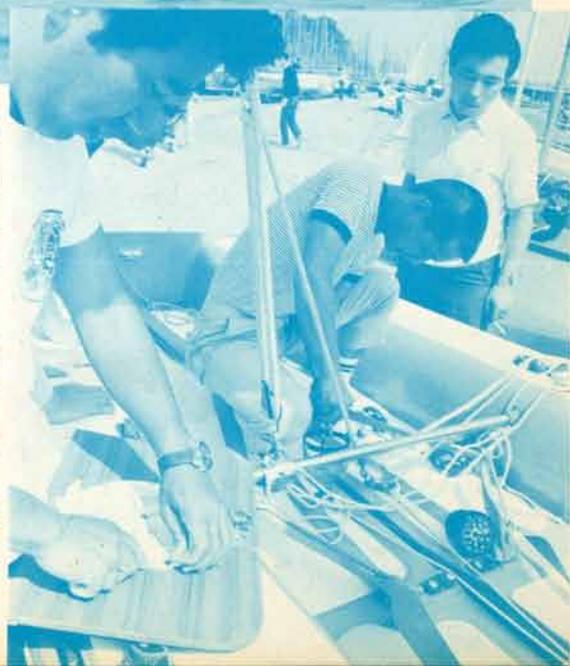


▲素早くマークをまわり、つぎのマークへ向って快走するヤマハ15DX

5月30・31日の両日、江之島沖で行われたOOAKR（ワン・オブ・ア・カインド・レガッタ）で、ヤマハ15DXが快勝しました。このレースは、別名、各型センターボーター代表艇レースといわれるように、あらゆるタイプのセンターボーター艇が一艇ずつ参加して覇をきそうレースで、ここで勝つことはその艇の優秀性を示すもので、新作艇の登竜門ともいわれています。

今年の参加艇は普通艇部門が32艇、トラビーズ艇部門が13艇でした。ヤマハは普通艇部門に参加、午前、午後、2日間計4回のレースに、安定したレースぶりを見せて、総合点で只一艇一〇〇点をオーバー、だんぜん他をひきはなしての優勝でした。

▶第一日は9メートルの風、クルーはセッティングに頭を痛めました。





ヤマハボート NO.31

■昭和45年 8月10日発行

■発行所 ヤマハ発動機株式会社 <静岡県浜北市中条>

■発行人 渡瀬善三郎



ヤマハ発動機株式会社

本社	静岡県浜北市中条	05358-7-1111(代)
ボート事業部	静岡県浜名郡新居町向島3380	05359-4-1211(代)
仙台支店	仙台市東4番丁54 仙台運送ビル内	0222-22-4141(代)
東京支店	東京都港区東新橋1の1の21 今朝ビル	03-572-2021(代)
世田谷店	東京都世田谷区駒沢1の4の15	03-424-8501(代)
名古屋支店	名古屋市北区辻本通2丁目34	052-913-2121(代)
大阪支店	大阪市西区北堀江通り4-27	06-538-7331(代)
広島店	広島市東雲町3丁目16-8	0822-82-4111(代)
四国支店	高松市田町11番地3 亀菱ビル2-2	0878-31-1661(代)
九州支店	福岡市比恵新町26	092-41-3606(代)
北海道駐在事務所	札幌市南五条東1丁目	0122-51-6141(代)